

秘

昭和六年
労働運動概要

関東廳警務局高等警察課



9430-5

446

I-0664

0245

目次

一	勞働運動、大勢	一
二	勞働界、恐慌時代襲来	四
三	勞働團體、狀況	二
四	勞働者、概況	一五
一	工場勞働者	一五
二	普通勞働者	三
三	自由勞働者	五
五	メーデー運動	六
六	金福鐵道従業員、紛争	二



9430-5 447

一	退職慰勞金支給問題	一五
二	幹部排斥問題	三
七	支那人野菜行商不賣同盟	六
八	勞働爭議	六
一	同盟罷業、考察	七九
二	同盟罷業、狀況	六
一	牛心臺炭礦同盟罷業	六
二	支那側柞蚕製糸工場同盟罷業	八
三	兼用馬車夫同盟罷業	九一
四	堤防工事苦力同盟罷業	九三
五	原塩運送我克船罷業	九四



9430-5 448

I-0664

0246

昭和六年中労働運動概要

一労働運動の大勢

昭和六年中ニ於ケル満洲労働界ハ近年打續ク各企業家ノ世界的経済恐慌ノ襲来ニ亜クニ空前ノ銀價暴落ニ依リ孰レモ昨年来断然事業緊縮ノ方針ヲ採リ生産ヲ制限シ事業ヲ縮少シ又ハ休止シ昨年中ニ萬數千名ノ労働者ヲ解雇シ剩ヘ生産低減ノ為メニ賃銀其ノ他ノ諸給與ヲ低下シ以テ財界不況ノ對策ニ努メタル為メ労働者ニ對シ極度ノ不安ト動搖ヲ與ヘタリ然ルニ経済界ノ不況ハ本年ニ入りテ益々深刻ノ度ヲ加ヘ剩ヘ銀價ノ崩落停止スル処

9430-5 449



ヲ知ラス從テ各物價ハ益々低落シ加フルニ支那内地ノ排日ニ災サレテ著シク滞貨減収ヲ招キ世界ノ有利事業ト目サレ羨望ノ中心トナリ居レル満鐵會社ニ於テスラ銀ノ暴落ト支那側ノ鐵道併行線ノ運行ニ依ル経済競争ト不當ナル経済壓迫等ニ依リ創設以來ノ大減収ヲ来シ前年第一次ノ整理ニ亜キ第二次大整理ヲ断行スルコトニ決定シタル結果之ト關係アル所謂傍系會社ニ於テハ各本社ハ方針ニ基キ一月以來之カ實施ヲ断行シタル為メ労働界ニ大ナル不安ト緊張トヲ與ヘタリ

9430-5 450



抑、現下ノ満洲工業界ハ満鐵會社及其傍系會

社ノ独占的状態ニアリ満鉄王國ノ稱アル所以モ亦茲
ニアリトス從テ滿鉄會社ノ縮少整理等ノ方針ハ忽
チ一般滿洲工業界ニ反映シ均シク之ニ倣ヒテ方針
ヲ定メ資本家ノ最モ苦痛トスル勞働問題等モ之
等工業界全般ノ大勢ニ乘ツテ其ノ難ヲ免レムトナシ
ホタ滿洲労働界ニハ何等統制アル組織ナク團結ナ
ク殆ント山東地方出稼労働者ナルノ便利ヲ利用シ却
テ機ニ乘シ資本家萬能ノ觀念ヲ以テ姑息ナル手段
ヲ弄シ以テ労働者ヲ壓迫シ自ラ労働者ヲシテ漸
次階級意識ヲ覺醒セシムルニ至ラシムルモノアリ然
レトモ資本家ニ採リテ最モ有利ナルハ滿洲労働者



9430-5 451

ノ其ノ多クハ遠ク山東直隸地方ノ出稼者ナルト多年
支那側力專制警察ヲ以テ極端ナル手段ヲ用ヒ赤化防
止ノ手段トシテ工會其ノ他労働團體ノ組織並ニ此種
團體的運動ヲ壓迫シ来レルト元来支那ノ労働運動
ハ共產主義運動ト其ノ盛衰ヲ共ニシ昨今ヲ如ク共產
黨運動ノ一般の衰退ハ忽チ労働運動ノ統制ト活氣
ヲ失ハシメ共ニ衰退スルニ至リ殊ニ滿洲支那側ニ於
テハ從來極度ニ共產黨運動ニ壓迫ヲ加ヘ来リタル
爲メ一時國民黨ノ勢力侵潤シ来リ党化運動ノ結果
ハ排日思想ノ惡化ヲ来シ延ヒテハ労働者界ニ迄影
カササル影響ヲ及ホシ甚タ憂慮スヘキモノアリシモ



9430-5 452

我警察取締ハ周到ナリト我資本家カ曾テ南支中支
方面ニ於ケル苦ガキ經驗ニ鑑ミテ之カ對策ニ善所
来リタル為メ其洗禮ヲ免レタルノミナラス未タ滿洲
ハ階級意識ニ基ク所謂勞働組合ノ組織等ナキ為メ
我工業界カ一弁ニ前年ニ勝ル勞働者淘汰ヲ斷行シ勞
働者ノ生活ニ大脅威ヲ與ヘタリト雖之カ防衛擁護
手段トシテ惹起シタル勞働爭議トテハ更ニナク本
期管内ニ於テ發生セル勞働爭議ハ僅カニ二十件參
加人員三千三十一名ニ過キズ之ヲ昭和五年中ノ三十三
件參加人員二千二百九十六名、昭和四年中ノ三十七件
參加人員六千五百三十五人ニ比較スルト半減ニシテ甚
三



9430-5

453

少シ之ヲ日本内地ニ照和四年ニ於テ該報一千八百二十三件
參加人員十六萬九百五十七人ニ對シ本期間ニ於テ此二千
百四十六件參加人員十四萬二千六百八十五人ニ激増セ
ル勞働情勢ヨリ見ルニキハ独リ滿洲勞働界ノ益
衰退ニ甚ク勞働問題複雑化ニ對シ奇異ノ感ナキニ
シモアラサルカ之ヲ管内ノ前記ノ如ク特殊理由ニ起因
スルモノニシテ而モ大規模ノ爭議トテ變更ニナク僅カニ
長春ニ於ケル野菜行高力支那官憲ヲ使喚煽動ニ依
リホイコツトヲ起シタルヲ外別項記載ノ如ク各種小規
模ノ爭議ノミナリシハ甚ク奇ナリ



9430-5

454

一 勞働界ノ恐慌時代襲来

中國々民党ノ共產党合係ハ共產党ヲシテ其ノ活路ヲ與ヘ國民革命ノ進展ニ伴ヒテ其ノ勢力全土ヲ風靡シ著シク支那勞働運動ヲ發展セシメ其ノ思潮ハ遂ニ滿洲勞働界ニ浸潤シ来リ一般思想上ニ斯カラス洗禮ヲ蒙リ數次ニ亘リ共產黨員ノ大檢舉ヲ行ヒテ以テ表面的活動ノ虛ヲ與ヘサリシカ國共關係ノ絶縁ニ因リテ支那全土ニ於ケル共產運動漸次衰退シ来リタリシカ滿洲カ國民党ノ統制下ニ置カレテ以来徹底的黨化工作運動ニ依リテ著シク民衆ヲ煽動シ排日思想普及サレ遂ニハ我滿蒙ニ於ケル特種權益ヲモ無視スル



9430-5 455

ノ態度ヲ示シ滿蒙ヨリ我勢力ヲ驅逐セ公衆風有奸策ヲ弄シ爲ニ各地ニ不祥事件頻發シ日支問題紛糾ニ伴ヒ卑劣ナル支那官憲ノ逆宣傳ニ依リ民衆ヲシテ對日感情ヲ惡化セシメ延テハ民族的ニ勞働者ノ思想上ニ急速ナル變化ヲ来サシメ滿洲ニ於ケル我資本家ヲシテ甚タシク憂慮セシメタルモノアリシカ世界經濟界ノ恐慌襲来ト昨年末空前ノ銀價暴落トハ必然的ニ一般私經濟ノ緊縮ヲ要求サレ延テ諸工業家ノ不振ヲ招来シ勢ヒ上生産制限ニ依リテ急場ノ打開策ヲ講セサルヘカニナル結果ヲ招来シ遂ニ勞働者ノ大淘汰ヲ漸行スルニ至リ昨年末滿洲勞働界未



9430-5 456

I-0664

0250

曾有、恐慌時代、襲来下ナリシカ從來資本家之憂慮セラレ来リタル滿洲勞働恩酬ハ此、未曾有、勞働界恐慌時代襲来ハ實現ニ依リテ其結果ヨリ見テ殆ント杞憂ニ終リタリ

然モ滿洲工業界ハ昨年中ニ略倒ルルモノハ倒レ整理スルモノハ整理サレ各一時の彌縫策ヲ講シテ不況打開ニ努ムル處アリシモ滿洲工業界ハ銀ノ暴落ニ伴ヒテ愈々深刻化シ吾界の有利事業ノ稼アル滿鉄會社ニ於テモ創立以來未曾有、大減收ヲ来シ而シテ之カ難關打開策ハ必要上豫定事業ハ繰延中止ニ般事業ハ緊縮整理等ニ因シ一月以來第二次対策講究中



9430-5

457

ハ處愈々本期年度ニ於ケル經費即減速行ニ伴ヒ職制改革ヲ行ヒ廣汎ニ再々徹底的人員整理斷行ニ決定シ極秘裡ニ計畫サレタル至急タカシ滿洲勞働界ニ大センセーションヲ惹起シ極度ノ不安ト動搖ヲ来シ成行憂慮セシレ警戒中ハ處滿鉄會社ハ愈々七月三十日午後社員淘汰ノ發表スルニ至リタリ
今次ノ淘汰條件ハ經費緊縮ハ關係上前年淘汰際待命期間平均一トナシタルモノ一ト月以上一年ニ短縮シ平均六ト月ノ待命トナシ還社賜金率ハ前年比同様十五年以上ノ勤續者ハ九ト月令十年以上十五年追ハ七ト月令十年以下ハ比較的低率ヲ以テ淘汰



9430-5

458

I-0664

0251

率ハ雇員僱員ハ五分減職員以上ハ一割高級社員ハ
下級社員ノ整理率ヲ減スル意味ニ於テ（一割ノ場合ハ
三十名）特ニ五十名ヲ整理スルコトトシテ各人ニ淘汰
發表ヲナシタリ之ヨリ沙河口工場ノミニテ當日言
渡サレタル者日本人職員十六名同僱員百十五名支
那人僱員百十二名計二百四十三名ニ達シ全般ニハ數
千名ニ及ヒ中ニハ相當不平分子アリテ不穩ノ兆アリ
現ニ誠首セラレタル大連小崗子貨物駅邦人駅員四名
ハ滿鉄會社ノ處置ニ憤慨シ驛長ハ私宅ヲ訪問シテ
遂ニ硝子窓ヲ破壊スル等暴行ヲ爲シタル事實アリ
又滿鉄總裁ニ面談スル等ト常軌ヲ逸シタル行動ヲ



9430-5 459

敢テナス者等アリ依テ特ニ七月三十日廳下ニ洛警察
署長ヨリ對シ今回滿鉄會社ニ於テハ職制改正ニ伴ヒ社員
ハ大淘汰ヲ行フコトトナリ本日ヨリ正式發表シタルガ之
カ爲メ不平分子ノ策動等アリテ事端ヲ惹起スルカ
如キコトアリテハ面白カラサルニ付之等ヲ默ニ充令
注意査察ヲ遂ケ事故防止ニ善處セラレハキ旨ヲ打電
シ特ニ大連各署ヲシテ總裁及重役等ノ身邊警護
ニ努メシムル處アリシ爲メ豫テ誠首社員中不逞分
子相結束シ全國ニ機ヲ能ハシメ社會問題ヲ惹起セシ
メント密カニ計畫サシ居ルモノヲ諒アリタルニ幸事ナ
キヲ得タリ



9430-5 460

斯ル満鉄ノ人員大整理ハ滿蒙時局急迫ノ將禍共般ニ大ナル衝動ヲ與ヘ社會問題トシテ重大視セラレタルノニナラス一面ニハ各企業家各自ノ立場ニ於テ緊縮整理ノ對策ヲ講スルニ至リ滿鉄ノ職制改正ニ基ク太淘汰前ニ於テ既ニ撫順炭礦部モンド瓦斯發電工場ハ其ノ副産物トシテ硫安及タールノ製造ヲ為シ來ルカ最近硫安及タールノ暴落ニ為メ大缺損ヲ生スルに至リタール為メ瓦斯發電生爐ハ一月三十一日限りニシテグラントヒ爐中ニ個々休業スルコトニ決シ之ニ伴フ從事員邦人九名支那人百七十一名ヲ剩員ヲ生シ支那人全員七百三十一名中ヨリ當日百五十名ヲ淘汰シ日本人九名支那人二十



9430-5

463

名ヲ他ニ轉勤セシメタリ撫順炭礦部ニ於テ生産率増進ヲ圖ル目的ヲ以テ過剩員淘汰ヲ断行スルコトトナシタルニ強制的裁員ヲ避ケ最モ有利ナル條件ノ下ニ支那人僱人ニ對シ希望者募集ノ結果一月三十一日迄ニ四百四十餘名ニ達シ之ヲ數回ニ別ク二月二日第一次二百四十四名ヲ鉄道ニ依リ輸送原籍地ニ送還第二次ハ二月六日百九十九名ヲ前回同様ノ方法ヲ以テ原籍地ニ送還シ之ニ採炭業工自然淘汰五百數十名ヲ加ヘ結局一千三十餘名ノ剩員淘汰ヲ行ヒタリ而シテ更ニ滿鉄會社職制改正ニ伴フ過剩淘汰トナリ



9430-5

464

二月一日發表邦人參事技師以下百七十四名突耶人一千二百
七十五名ヲ強制淘汰シ次ニ第二次人員整理ヲ行フコト
本邦テ有利ナル待遇條件ヲ以テ希望者ヲ勸誘シ方
法ヲ採リタル結果邦人二十名突耶人五十六名ニ達シ各
八月十五日限リ之ヲ退職セシメ結果撫順炭砒ニ於テ
前後ヲ通シ二千三百名突耶人淘汰ヲ漸行セリ
更ニ滿鉄ハ一般のニ從來華工賃銀支拂特定率ヲ三月
三十一日ヨリ銀百圓對金六十八圓替ヲ六十圓ニ減シ且
拂上賃銀三十四錢ヲ三十三錢ニ引下テ即日ヨリ施行セシ
テ特種事業タル鞍山振興公司ハ如キモノ三月十日ヨリ華
工一日平均金四十三錢ヲ四十錢ニ値下發表即日ヨリ實
施スルト共ニ滿鉄ノ方針ニ倣ヒ三月廿二日華工八百名中



9430-5

465

百六十二名ヲ解僱スルニ至リタリ
又本溪湖煤鉄公司ニ於テハ前年十二月昇給スヘキ從
事華工ノ賃銀ヲ二月ニ延期セシメ二月一日ヨリ賄料一
日金十一錢ヲ八錢ニ入院料一日社員一圓五十錢ヲ一圓三
十錢ニ工人一圓二十錢ヲ一圓ニ値下實施スルト共ニ一
二ハ一ヶ年出炭豫想高五十五萬噸ノ處銀安ノ打撃ヲ
蒙リ貯炭八萬噸ニ及ヒ之ヲ打關方法トシテ第四坑
第五坑ノ採炭ヲ中止スルノ已ムナキニ至リ本年度出
炭豫想高四十五萬噸ニ減シ之ニ伴フ過剩華工ノ淘
汰ヲ行フコトナシ二月末限リ苦力採用ヲ中止シ自然



9430-5 466

I-0664

0255

的漸減ノ方法ヲ採リ前年四月末ノ九千六百九十三名ニ
比スレハ本年四月七千五百八十名ニシテ一千六百十三名
ノ減員ヲ見ルニ至リタルカ更ニ全坑ヨリ一千名ヲ淘汰
解僱シ之ヲ支那側ノ事業タル葫蘆島築港ニ送ルハ
ク計畫サレ居タルモ偶々共產黨ノ策動ヲ慮リ一時之
ヲ中止シ五月四日僅カニ五千余名ヲ解僱シタルノミ
テ事ナキヲ得タリ
又南滿昌光硝子會社ニ於テハ一月三十一日華工九十五
名ヲ淘汰シ當日支那人八十二名支那人五百三十三名ヲ使役
シ毎月二萬七千餘圓(一圓ハ價格金四圓)ノ製造ヲナシ
主トシテ上海青島南滿沿線及支那主要地ニ販路ヲ



9430-5 467

有シ居タルカ銀安ト排日ノ影響ヲ蒙リ漸次取引減少
シ本年ニ入り毎月一萬圓ハ欠損ヲ蒙ルニ至リ之カ對
策上五月一日ヨリ一率ニ最高三割最低一割給與減シ
斷行シ更ニ三日一部事業縮小ヲ理由トシテ五十六名
ヲ六月三十日邦人十八名ヲ各淘汰シ次ヲ工場職場機
構等改造ノ結果約半数ノ冗員ヲ生シ八月三十一日百九
十四名ノ華工淘汰ヲ斷行シ大動搖ヲ生シタルモ別ニ不
穩ノ行動ヲ認メス
小野田セメント會社大連支店ニ於テハ昨年十月第一
場ヲ閉鎖シ生産制限ヲ爲シタル結果約三百名ノ過剩
員ヲ生シタルモ工人ノ動搖ヲ慮リ其ノ儘使用シ来ル



9430-5 468

モノナルカ財界好轉ノ見込ニ加フルニ銀暴落ノ結果日支人二百名ヲ整理スル目的ヲ以テ穩便ナル方法ヲ採リ有利ナル條件ヲ以テ四月八日迄各工長ヲ經テ自發的退職希望者申出方募集シタル結果職工二百五名ニ達シ平穩裡ニ其ノ目的ヲ達シタル爲メ更に華工賃銀金建金拂ヲ六月一日ヨリ其ノ三分ノ二ヲ金建金拂トシ三分ノ一ヲ銀建金拂ニ變更シ其ノ換算率ハ前十五日間ノ銀相場ヲ平均シタルモノヲ以テ實施スル事トナシ事毎ニ會社ニ有利ナル方法ヲ採ルニ至リタルカ労働者間ニ於テハ何等之ニ反抗スルカヲ有セズ不利ナル條件ノ下ニ甘スルニ至リタリ



9430-5

469

尚營口東亞煙草製造所ハ従来數回ハ同盟罷業ニ悩マサレタルモノナルカ昨年末一級工業界ノ大勢ニ束シテ數回ニ亘リ人員大淘汰ヲ漸行シ其ノ際殆ント不良分子ヲ一掃シ得タルカ更ニ銀安ノ影響ヲ受ケ事業著シク不振ニ陥リ遂ニ經費節減ノ爲メ更に華工整理ノ已ムトキニ至リ現華工六百二名中百十四名ヲ淘汰スルコトナリ四月十日各人ニ言渡シタルカ既に不良分子ハ昨年ノ淘汰ノ際整理サレ居タル關係上何等ノ不穩言動ヲ試ミル者ナク解決スルニ至リタリ



9430-5

470

不利ニ陥ラシメ労働者ヲシテ生活ヲ不安ナラシムルニ至ラシメタルニモ拘ラス労働者ニハ之ニ抗争スルノ力ヲ有セス生存擁護ノ運動スヲ起サザリシハ比較的一時的待遇ノ不利ナルコト主トシテ山東地方ノ出稼者ナルコト労働思潮ノ幼稚ナルコト等ニ起因スルモノナリトハ云々満洲労働者間ニ何等ノ支持支援ナク統制的團結ナキコトヲ明證スルニ充分ナルモノト言スヘキナリ

三 労働団体ノ状況

労働運動ト労働団体ノ組織運動トハ因果關係ヲ以テ盛衰スルヲ常トセリ管内ニ於テハ大正十五年八月支那人エ人ヲ以テ組織セル大連中華工學會解散以來

昭和三年十二月滿鉄會社邦人現業員ヲ依テ滿鉄傭負聯盟準備會ヲ組織シ全傭員階級ノ團結ヲ圖ラント計畫シ不穩ニ行動ニ出テタルヲ以テ未然ニ之ヲ防止シ更ニ昭和四年十一月大連南滿電氣會社電鉄業務員タル邦人間ニ乘務員會ヲ組織シ支那人現業員ヲモ加入セシメ漸次待遇改善、生活ノ向上等自治的運動ヲ起スニ至リシカ會社が滿鉄會社ノ傍系ナルヲ利用シテ之ニ彈壓的手段ヲ加ヘリトダトハ悉ク解散セラレ遂ニ會ノ統制ヲ失フニ至リ一年ヲ出テスレテ解散スルニ至リ昭和四年以來滿鉄傍系大連汽船會社カ事業擴張計畫ノ反面ニ邦人乘組船員ヲ支那人ニ替



9430-5 472



9430-5 471

ヘントスルニ當リ遂ニ日本海員組合ノ活動トナリ昭和五年
七月組合長濱田國太郎自ラ陣頭ニ立チテ上京中ノ滿
鉄總裁ヲ訪問シテ反對的陳情ヲ行ヒ又拓務大臣内務
大臣遞信大臣等ニ宛テ反對陳情書ヲ送り全日本海員組
合ノ輿論ヲ煽リ且同組合調査部長那賀源三郎及同
海友俱樂部常任理事新免正夫ノ兩名ヲ大連日本海
員組合出張所ニ派遣シ來リ堂々タル陣ヲ張りテ滿鉄及
大連汽船會社ニ對シ直接反對運動ヲ行ヒタル結果九
月十七日兩者間ニ妥協成立シタルモ爾來海員組合ニ於
テハ大連港ヲ相當重要視スルに至リ遂ニ十一月本部ニ
於ケル評議員會ニ於テ大連出張所ヲ日本海員組合支



9430-5 473

部ニ昇格セシムルコトニ決定シ同時ニ下關海員組合支
部長濱尾保ヲ支部長ニ任命シ本年一月七日大連海務
協會内ニ於ケル同出張所ヲ大連市山縣通二百十八番地
ニ移轉シ支部ノ事務ヲ開始スルニ至リタルカ當時海
務協會ニ於テハ日本海員組合ノ支部昇格事務ノ擴
張ハ滿洲勞働運動ヲ刺激セシメ其ノ及ホス處數カラ
スト憂慮シ極力事務ノ独力ニ反對スル處アリシカ
滿洲ハ内地ト其ノ事情ヲ異ニスルモノアリ從テ海員組
合支部トシテモ爾來積極的活動ヲナスノ余地ヲ有セス
僅カニ事務的ニ失業海員職業紹介ノ如キモ元來海務
協會ニ於テ無料取扱ヲ行ヒ居レル關係上組合支部



9430-5 474

トシテ直接取扱フカ如キハ稀ニシテ本年中支部各關
係シ紹介就職セシメタル者僅カニ三十名ニ過キ不船員下
船向題ニ因シテモ積極的活動ヲ行フカ如キ問題カ
本年中各船員間ノ親睦地位ノ向上ヲ圖ル目的カ下ニ三
回ニ亘リ茶話會ヲ開催シタルモ一艘船員ハ船中ニ於テ
適宜會合シ居レル關係上支部ニ出席スル者甚ク僅
少ニシテ殆ンド振ハス船主對船員間ノ緊急問題例ハ
ハ食料改善公傷病ニ因ル船主ノ救済等ニ因シテハ直
接交渉シ圓滿解決シタルモノ相當アルモ積極的勞勵
運動ハ何等關係セズ太連疊職工組合ニ於テモ近年
支那人職工ニ侵蝕セラレル虞アルニ至リ八月八日組



9430-5

475

合員側ヨリ疊商ニ對シ支那人使用停止方交渉ノ結
果疊商側モ大體之ヲ承認シ支那人職工ヲ解雇セシム
ルニ至リタル程度ニシテ何等積極的運動ナク大連海上
勞働同盟組合ニ於テモ九月十六日委員會ヲ開催シ船
動船々員失業救済ニ因シ協議ノ結果大連本籍船主
ニ對シ就職方交渉シ漁撈高ノ二割乃至三割五分ノ給料
ニテ奔動漁船三隻ニ對シ各五名ヲ就職セシメタリ此
間何等問題トナリタルモノナシ
如斯管内ニ於テハ現在更ニ統制アル勞働團體ナルモノ
ナク從來共階級意識ノ下ニ組織セズレタル團體モ大滿
鐵會社ヲ背景トスル資本家側ノ彈圧ヲ蒙リテ残敗ニ



9430-5

475

I-0664

0260

終り解散スルに至リ現存セル左記團體ハ所謂勞働團體トシテノ使命ヲ有シ積極的運動ヲ爲スカ如キ力ヲ有スルモノ等アルヲ認メス從テ今俄ニ組織的統制アル勞働團體ノ成立スル見込ナク經濟界ノ好轉セサル限リ勞働團體ノ組織運動ハ行ハレサルヘシ

勞働團體調査 (昭和六年末日現在)

名 稱	設立年月日	所在地	會員數	幹部氏名	團體ノ目的
職業同盟支部	大正十三年六月	奉天西塔	勞農五〇	バルグマン	勞働者ノ團結ト思想主義宣傳ノ予備機關
大連鹽職工組合	大正十四年七月十五日	大連市常陸町三五	日支人八三	田中正男	品性向上組合員相互親睦並斯業技術ノ上達ヲ期ス

S 9430-5 477

大連電鉄中華青年團	大正十五年三月	大連市武藏町五九	支人四〇	呂聖永	品性ノ陶冶日本語學習獎勵團體員相互扶助及慰安
大連建築現業員組合	昭和二年三月二十三日	大連市若狹町六三	日支人五四九	沖原盛藏	組合員相互扶助親睦及共同利益を増進ス
安東勞働共濟會	昭和二年六月二十日	安東縣四省通八丁目三	鮮人八〇〇	李秉奭	鮮人勞働者相互親睦ヲ圖リ生活ハ安定ヲ期ス
鞍山勞働同志會	昭和三年二月十一日	鞍山縣島町二丁目七四	日人三七	三谷竹次郎	勞働社會ノ繁榮ヲ改善シ時代進歩ヲ推進シ會員ノ信用ヲ増進シ併テ親睦ヲ圖ル
大陸勤勞組合	昭和三年四月十六日	長春永樂町三丁目六	日鮮人六六	佐竹善太郎 李鴻周	朝鮮勞働者及之ニ賛成ノ士ヲ以テ組織シ會員ノ親睦精神修養及職業ノ紹介等ヲナス
関東州大連海上勞働同盟組合	昭和三年七月二十日	大連市乃木町九	鮮人三三	金泰斗	品性ノ陶冶向上勤儉ヲ旨トシテ相互ノ福祉ヲ圖ル

S 9430-5 478

I-0664

0261

終り解散スルニ至リ現存セル左記團體ハ所謂勞働團體トシテノ使命ヲ有シ積極的運動ヲ爲スカ如キ力ヲ有スルモノ等アルヲ認メス從テ今依ニ組織的統制アル勞働團體ノ成立スル見込ナク經濟界ノ好轉セサル限リ勞働團體ノ組織運動ハ行ハレサルヘシ

勞働團體調査 (昭和六年末日現在)

名 稱	設立年月日	所在地	會員數	幹部氏名	團體ノ目的
職業同盟支部	大正十三年六月	奉天西塔	五〇	バルグマン	勞働者ノ團結ト思想主義宣傳ヲ予備機關
大連置職工組合	大正十四年七月十五日	大連市常陸町二五	八三	田中正男	品性ノ向上組合員相互親睦並ニ職業技術ノ向上ヲ期ス



9430-5 479

大連電鉄中華青年團	大正十五年三月	大連市武藏町九	五〇〇	呂聖永	品性ノ陶冶日本語學習獎勵團體相互扶助及慰勞ノ事
大連建築現業員組合	昭和二年三月二十日	大連市若狹町六二	五四九	沖原盛藏	組合員相互扶助親睦及共同ノ利益ヲ増進ス
安東勞働共濟會	昭和二年六月二十日	安東縣四番通八丁目三	八〇〇	李東奭	鮮人勞働者相互ノ親睦ヲ圖リ生活ノ安定ヲ期ス
鞍山勞働同志會	昭和三年二月十一日	鞍山縣島町二丁目七四	三七	三谷竹次郎	勞働社會ノ榮耀ヲ改善シ時代進歩ヲ推進シ會員ノ信用ヲ増進シ併テ親睦ヲ圖ル
大陸勤勞組合	昭和三年四月十六日	長春永樂町三丁目六	六六	佐竹善太郎 李鴻周	內鮮勞働者及之ニ賛成シテ以テ組織シ會員ノ親睦精神修養及職業ノ紹介等ヲナス
關東州大連海上勞働同盟組合	昭和三年七月二十日	大連市乃木町九	一二〇	金奉斗	品性ノ陶冶向上勸励ヲ旨トシテ相互ノ福祉ヲ圖ル



9430-5 480

I-0664

0262

關東中漁撈海員會 昭和五年七月二日	大連市乃木町	三七〇	綾未廣 本間又吉	會員、向キト福利増進 及斯業、發達ヲ期ス
日本海員組合 大正三三三 事務所開設 昭和六一七 支部昇格	大連市 山縣通三八	本部組合員 八七〇〇〇 支部員八八 動アルヲ以テ	濱尾保	労働条件、維持及改善生 活、安定政治的並社會的 地位、向上組合員相互 福利増進
奉天盟職工 昭和六年七月一日	奉天 橋立町二六	日人 二九	竹下唯夫	組合員、親睦ヲ圖リ業 務、改善向上ヲ目的トス

四 労働者概況

(一) 工場労働者

昭和六年十二月末現在調査ニ依ル管内ニ於ケル労働者總數ハ別表ノ示スカ如ク工場數ハ(礦山ヲ含ム)五百八十二其ノ所屬労働者七萬四千八百二十五人ヲ之ヲ前年末調査



9430-5

481

ノ五百八十其ノ所屬労働者八萬四千四百三十三人ニ比較セハ工場數ニ於テニ増加シ労働者九千五百九十八人ヲ減少シ之ヲ昭和四年十二月末現在調査労働者九萬七千六十四人ニ比較スルトキハ二萬二千二百三十九人ハ減少ヲ示シ居レリ

更ニ之ヲ國籍別ニ見ルニ日本人男六千六百十一人女百二十六人計六千七百三十七人、支那人男六萬三千四百四十一人女三千九百三十七人計六萬七千三百七十八人、朝鮮人男三百七十七人女三百三十二人計七百九人其、他外人男ニシテ前年末ニ比較スレハ日本人ニ於テ五百十八人ヲ減少シ支那人八千六百八十一人ヲ減少シ朝鮮人三百七十七人減少



9430-5

482

I-0664

0263

其他外國人二十九人ヲ減少セリ之等勞働者中支那人ハ總數ノ九割強ヲ有シ管内勞働者ハ主體ヲナシ居レルモノナリ殊ニ日本人ハ工場總數五百八十二ニ對シ僅カニ一工場ニ付十二人弱ノ割合ニ過キス然シテ其ノ多クハ滿鉄會社及其傍系會社工場ニ所屬シ特殊ノ技能ヲ得過リ受ケ居ルモノニシテ比較的經濟的ニ惠マレ居レル關係上思想穩健ニシテ曾テ一部分子ノ策動アリタルモ直ニ共鳴スル者少ク從テ其間何等組織的相互連絡機關等ハ設置アルヲ見サルカ近時思想ハ變遷ニ伴ヒ日本人勞働者中ニ於テモ動トモスルハ階級闘争ヲ企テ以テ勞働條件ヲ有利ニ導カントナスノ情勢ニ向ヒツツアルモ



9430-5

483

常ニ資本家ノ彈壓手段ニ通ヒテ其ハ主體ノ結成ヲサスニ至ラサルモ將來資本家トシテ相當對策講究ヲ要スルモノトス更ニ之ヲ工場經營者別ニ見ルトキハ日本人工場三百三十五其ノ所屬勞働者五萬八千八百十六人尙日支合辦工場十其ノ所屬勞働者九千十九人ヲ加フレハ六萬七千八百三十五人ニ達ス更ニ支那人經營工場二百二十七其ノ所屬勞働者七千七百六十八人朝鮮人經營工場七所屬勞働者七十一人其他三所屬勞働者四十七人ニシテ日本人經營工場ハ總數五割九分強ニ相當シ之ニ所屬セル勞働者數ニ於テ



9430-5

484

I-0664

0264

総労働者、九割強ニ達シ居レルモノニシテ本期間同盟罷業
中日本人關係八割ノ多キハ之カ最大原因ヲナシ居レルモノ
ト言フヘキモ尚之等同盟罷業中ニハ労働者ノ民族的偏
見觀念ヨリ感情ニ支配サレ居ルモノ尠シトセズ資本家
ノ反省ヲ要スル點ナリトス

尚之ヲ地方別ニ見ルトキハ大連八千九百四人、沙河口六千
三百四十三人、小崗子三千四百五十九人、金州二千二百三人、鞍
山三千六百六十三人、遼陽三千四百四十九人、撫順三萬百六
十九人、本溪湖六千七百二十八人、安東二千五百十四人、長春
一千三百二十九人、奉天二千五百五十九人、其ノ他ノ地八千名
ニ足ラス中ニモ大連ハ國際都市トシテ諸工業發達シ

9430-5 485

從テ工場數ニ於テ労働者數ニ於テ管内第一位ヲ占メ
一般労働者ヲ加スルトキハ七萬六百四十九人ニ達シ管内
全労働者ノ四割強ヲ有シ労働者抱擁力ニ於テ首位ヲ
占メ居レリ

尚撫順ハ滿洲第一ノ炭礦所在地ニシテ且ツ工場並達
シ工場労働者ハ炭礦ヲ含メニ於テ管内ノ首位ヲ占メ
三萬百六十九人ヲ有シ各種労働者ヲ合スレハ三萬九千
五百十六人ニ達シ面積ヨリ論スルトキハ管内ハ勿論
滿洲中第一ニシテ労働者都市トモ稱スヘク中國
共產黨カ常ニ撫順ヲ目標トスルハ故ナキニ非サルナ

9430-5 485

工場労働者調査

昭和六年十二月末日現在

署名	工場数	職		工		外国人		計
		男	女	男	女	男	女	
旅順	一七	四三	—	四六九	—	—	—	五一二
大連	一六	六三	—	四七五	—	—	—	七八三
水上	一	二七	—	七二	—	—	—	九九
小崗子	六〇	二五四	—	二〇七	—	—	—	三三三
沙河	八二	三九二	—	三九〇	—	—	—	五八二
金洲	一二	—	—	一八四	—	—	—	一八四
普蘭店	—	—	—	七八	—	—	—	七八
貔子窩	三	—	—	二八	—	—	—	二八
瓦房店	二二	三八〇	—	四四三	—	—	—	八二三
太石橋	八	一六	—	—	—	—	—	二二
營口	一〇	一五	—	五六一	—	—	—	五七七



9430-5 487

鞍山	一〇	三三三	—	三六九	—	—	—	三六六
遼陽	一二	九〇	—	一九五	—	—	—	三〇四
奉天	四六	二二二	—	二六五	—	—	—	一七八
撫順	二九	一九四	—	二七〇	—	—	—	三〇〇
本溪湖	六	四七	—	六六八	—	—	—	六七三
鐵嶺	一七	八九	—	三三三	—	—	—	四四九
開原	一七	四	—	—	—	—	—	四九八
四平街	一九	二六	—	四四六	—	—	—	六一五
公主嶺	八	四	—	四九六	—	—	—	一三二
長春	四五	五九	—	二五九	—	—	—	一三二
安東	四一	九四	—	一五三	—	—	—	一六二
合計	五八二	六六二	—	三九三	—	—	—	一〇四三



9430-5 488

I-0664

0266

工場労働者経営者別数調 昭和六年十二月末現在

令計	露支合併	日米合併	日鮮合併	日支合併	朝鮮人	支那人	日本人	国籍別	経営者	工場数	労働者				計
											日本人	支那人	朝鮮人	外国人	
五八二	一	一	一	一〇	七	二二七	三三五				男	女	男	女	
六六二		一		五〇			六六〇				男	女	男	女	
一二六		一〇					二六				男	女	男	女	
六三四	一五	三	一〇	八九六	三九	六四四	四九三				男	女	男	女	
三九三七					二〇	二八三	三六四				男	女	男	女	
三七七			四		五二	三	三八				男	女	男	女	
三三二			三		六四	八	二五七				男	女	男	女	
一	一										男	女	男	女	
七四三〇	一六	四	一四	九〇一九	九一	六四七七	五八〇九				男	女	男	女	
四三九五		一〇	三		八四	二九一	四〇〇七				男	女	男	女	



9430-5

489

I-0664

0267

鞍山	遼陽	奉天	撫順	本溪湖	鐵嶺	開原	四平街	公主嶺	長春	安東	合計
一〇	一二	四六	二九	六	一七	一七	一九	八	四五	四一	五八二
三	一	一				三		四	一六	七	七三
											四一
五七	一七	三三	二〇	一九	一二	九	二	九	五四	四四	一二九二
五三	三一	一五二	一六三	一四二	八七	八六	六九	二五	一七八	二二	一九七六
	五	三	一三	二四	四				二	四	二八
一三三	六四	四六六	六六九	二四四	二〇七	一五五	二八	三二	四〇一	五〇	二八五
	六	四	五		三			五	四	六八	五九
一六三	二五〇	四八四	五〇八	二九八	一三三	一六一	二二	五一	五〇	六八	二六四
	四	七二	五五		二六			二	一	一九八	二五
一六六	三三	三〇九	一九三	二五	一〇	六四	五	一	一七	二四	五九
	七〇	二九	二四		二			四		二六	三四
											一八
三六三	一〇五	一七八	三〇六	六七八	四四九	四九八	六五	一一	一一	一六	七〇四
		三七五	二四三		六四			一	七	四三	四三九



9430-5

491

署名	工場数	卒歳以上	五十歳以上	四十歳以上	三十歳以上	二十歳以上	十歳以上	十歳未満	計
旅順	一七	二	三二	八〇	一五五	一八六	五七	五二	五一二
大連	一六	九	三三	一四〇	二八八	三五四	八九	七八	七八五
水上	一		一三	一三	五九	一七	三		九
小崗子	六〇	五	四九	三三	一九六	一四五	六四	三三	三三三
沙河	八二	一四	四〇	一〇三	一四〇	二四〇	六四	四一	五二〇
金州	一二	四	二九	九〇	一六五	七五	四九	二九	一八四
普蘭店	一		二七	二七	二〇	二	四	一三	七八
貔子窩	三	一	二	三	六	一二	四		二八
瓦房店	二二		二〇	一〇三	二二	三八	二〇	二五	八三
大石橋	八	一	八	二五	一〇〇	九〇	四		二三八
營口	一〇	二	一四	五七	四二	九四	一三	二	五七七
									四〇六



9430-5

490

工場労働者年齢別調

昭和六年十二月末日現在

I-0664

0268

工場労働者調

(各署別)

一 旅順

工場名	経営別	職数						賃銀支給制度	救済手當	労働時間
		日本人	支那人	朝鮮人	外国人	計				
大連汽船株式会社船渠工場旅順分工場	日本人	三八	一五			五三	金			一〇
武田煉瓦工場			三五			三五	銀建 小洋拂	実費 公費		一〇
満洲蚕絲株式會社旅順絲廠			三二			三二	金			一〇
野間鉄工場		一	二四			二五	金			一〇
吉野洋服仕立工場		一	三〇			三一	銀建 小洋拂			一〇
旅順窯業會社			三〇			三〇	金			一〇
大日本産業株式會社双島灣製塩工場			一六			一六	金			一〇
東光堂製菓工場		二	四			六	金			九



9430-5 492

山下鉄工場	日本人	一五				一五	金			八
柏木鉄工場		一五				一五	金			八
山崎土器製造工場		一五				一五	銀建 小洋拂			九
木村屋製菓工場		一四				一四	金			九
福興泉焼鍋	支那人	一四				一四	銀建 小洋拂	実費		七
公和彩染物工場		一三				一三	金			一〇
天興鉄工場		一〇				一〇	金			一〇
三合湧染物工場		一〇				一〇	金			一〇
永勝彩染物工場		一〇				一〇	金			一〇



9430-5 493

備考

満洲蚕絲株式會社旅順絲廠職工数前期ニ比シ著シク減少セルハ工場内修繕ノ爲メ十二月二十日ヨリ臨時休業セルニ至リ一時職工ヲ解雇シタルニ因ル

I-0664

0269

普通労働者經營者別數 昭和六年十二月末現在

使用 者別 者數	日本 人		支那 人		朝鮮 人		外國 人		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
日本 人	一三五	一三三	二	三九二	六四	一七	六	四〇四	六六
支那 人	一二三	三二八	三	三					
日支 合算	二	三八	五〇	九〇					二八
日露 合算	一	五〇							
米國 人	一	二〇							
合 計	二六二	三〇四	五	六四	三	一六	六	四四〇	九四



9430-5

538

I-0664

0292

